



発行日 令和2年9月17日



No. 9

やりがいを感じられるようにしておきたい！

～ 新しい生活様式の習慣化や学校・家庭での健康管理の延長上に節目となる取組が… ～

校長 宮 居 伝

第2学期がスタートして約1ヶ月、新型コロナウイルス感染症予防の取組を行いつつ、学校には、子どもたちの子どもらしい姿が戻ってきました。依然として心配、そして緊張感を抱きつつ過ごす毎日ではありますが、何ともうれしいかぎりです。

ところで、「滋賀教研（滋賀県小中学校教育研究会発行・第206号）」という小冊子に、次のようなコラムがありました。

その場に居並び、同じ空気を吸うことで、一同が心を練り上げていく。ヒトが社会を形成させる上で、なくてはならない営みだ。そんな寄り合いをコロナ禍は断念させた。

代わりに総会も大会も研修会も、ICT機器を駆使し、なんとか実施できた。紙面決議や誌上発表、さらにはオンライン研修が、そうである。

以前なら、みんなが集まったあとは「おつかれさん」と …（略）… ICT機器が第二のマスクよろしく人を感染から守ってくれたのである。 …（略）…

気になるのは、これからのこと。確かにICTは、感染から人を守った。が、内容はどうか。いい加減なものになっていないだろうか。何を守り、さらに盛り込んでいくか、どこを削り、改編させていくのか、次の世代が、やりがいを感じられるようにしておきたい。

「やりがいを感じられるようにしておきたい」というひとことには、たいへん考えさせられるものがあるように思います。大人社会にあっては、「次の世代がやりがいを感じられるようにしておきたい」と言う少々の時間的余裕はあるものの、子どもたちにとっては、一生の中でも著しい成長を遂げる今（義務教育期）をどのように過ごすか（過ごせるか）は、今後に大きな影響を与えるように感じます。

心配される状況や様々な制限がある中ですが、学校で学ぶことの教育的意義を見つめ、できる限りの感染症対策を行った上で、毎日の教育活動、そして節目となる取組を進めて参りたいと考えています。

なお、いろいろなお知らせをしておりますが、「日々の予防に向けた新しい生活様式の習慣化や学校・家庭での生活、健康管理の延長上に、節目となる取組（例えば校外学習や音楽集会当日など）があること」をご理解いただき、どうか健康な毎日が過ごせますよう、これからも声かけや目配りなど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、子どもたちをはじめご家族様におかれましても、引き続きの感染症予防へのご協力をお願いいたしますとともに、お体ご自愛ください。



リコーダー学習も始まりました
(フェイスシールド着用)

「新しい健康観察シート」について

第2学期には、できるかぎりの新型コロナウイルス感染症予防の取組を行う中で、校内での教育活動とともにバス等を利用した校外での学習も進めて参ります。

つきましては、10月上旬から校外学習が始まりますことから、ご家族の様子につきましてもお知らせいただき、『新しい健康観察シート』へと9月19日（土）より変更させていただきます。（9月17日配布の用紙です）

下校時の見守りや立哨ボランティアへのご協力

ありがとうございました！

1学期末や2学期はじめには、子どもたちの下校時間帯における暑さや熱中症への対応につきまして、保護者のみなさまをはじめ、地域の方々に、たいへんお世話になりました。

日々の見守り活動や下校途中の休憩所、臨時の通学路短縮に伴う立哨ボランティア等、ご協力を賜りましたこと、心よりお礼を申し上げます。

また、能登川駅前交番や更生保護女性会のみなさまにも、お力添えをいただきました。重ねてお礼を申し上げます。

引き続きのご支援を、よろしくお願いいたします。

